

農業クラブ員としての自覚をもち、意欲的に活動し、農ク活動をより活性化させるにはどうすればよいか

クラブ員代表者会議 四国ブロック連盟 香川県立農業経営高等学校
農業生産科 2年 土井 翼
農業生産科 2年 山口 朋恵

1. 四国ブロックの概要

日本学校農業クラブ四国連盟は、四国四県（香川県・愛媛県・高知県・徳島県）で構成されており、「四国はひとつ」という大きなスローガンのもと、農業関係学校31校、クラブ員4,725名が日々目標を持って活動をしています。また各種発表や技術検定、農業鑑定競技にも熱心に取り組み、農業クラブ全国大会でも優秀な成績を収めることができます。

2. 香川県立農業経営高等学校の紹介

私たちの香川県立農業経営高等学校は、讃岐の国・香川県の中央部に位置し、県下最長の川である清流綾川が流れる綾歌郡綾川町にあり、農業を学ぶ専門高校です。本校は、大正天皇即位の大嘗祭の際し、主基齋田（大嘗祭に供奉する新穀を栽培する齋田が、全国から2カ所選定され西に位置するものを「主基（すき）」と称します）が綾歌郡山田村（現綾川町山田下）に選定された栄光を記念するため、地域の人達の熱意により本校の前身である主基農林学校が設立されました。その後、大規模な農場と寄宿舎を有する四国で唯一の文部科学省指定の農業経営者育成高等学校として、校名も香川県立農業経営高等学校と変更し、現在に至っています。



本校では「普通教育」「農業教育」「寮教育」を教育の三本柱として掲げており、農業の各分野で活躍できるスペシャリストの育成と農業に関連する産業人の育成を目指しています。農業教育では、校訓である「照于一隅」の精神の基、1年次はくくり募集として、全員同じ農業科として入学し、農業全般の基礎を学びます。2年次には4つの科に分かれて、発展的な農業の学習や技術を学びます。そし



て、3年次には12の専攻に分かれ、より専門的な農業の知識と技能、技術を学び、学習の深化を目指しています。また、寮教育では、1年生は一年間の義務入寮が決められており、集団生活を通じて「自律・協同・責任」の精神を体得し、農業を行う者としての基本的な生活習慣や態度を身に付けるための寮生活をおくっています。

3. 学校内での取組み状況

(1) 各農業クラブ大会への参加

本校は今年度、12年ぶりに四国連盟事務局校を担当し、四国連盟代議員会、四国大会の企画・運営を担当しました。併せて、香川県連盟事務局校として、県連盟の活動のとりまとめも担当しました。単位クラブとして、県連盟事務局として、四国連盟事務局として、それぞれの活動・事業に多くの本校農業クラブ員が参加しています。

8月20日、8月21日に開催した「第70回日本学校農業クラブ四国大会」では大会運営にあたる農業クラブ役員とともに、1年生の全農業クラブ員が参加しました。大会に向けた準備期間、大会期間、大会後を通して上級生の農業クラブ役員が下級生の農業クラブ役員、農業クラブ員の期待に応えるべく、率先して運営にあたり、大会の円滑な進行に努めました。その中には、上級生は頑張る自分たちの姿をみて、農業クラブ役員を目指すようになってもらいたい、より充実した農業クラブ活動を目指すようになってもらいたいとの思いが強くありました。また、農業クラブ員、各々が各種発表会や各競技会に積極的に参加することにより、自らの農業クラブ活動に対する意識の向上と、他の生徒に対する意欲的な活動や参加を促すきっかけとなっています。

(2) 主基農経祭の開催

本校では、春と秋の2回、主基農経祭を開催しています。主基農経祭では、農産物や農産加工品の即売会、各種バザー、各イベントとともに学習の発表会なども行っています。農経祭では農産物の即売会を目当てに、開始前から500人もの来場者が並ぶときもあり、来校者数が1日で2,000名を超える年もあります。

農経祭では、農業クラブ役員は当然のこと、農業クラブ員全員が農経祭の運営になにかしら携わることになり、一人一人が与えられた仕事をしっかりとこなして一丸となって取り組みます。自らが栽培した農産物や加工品の販売やバザー、イベント、学習発表の場を通して、自分たちが学んでいることに対して誇りと自信を持つとともに、来校者の喜ぶ様子を見て充実感と達成感を感じられる貴重な機会となっています。農経祭は農業クラブ員の意識の向上、意欲的な活動の場として大切な行事となっています。



(3) その他の活動

その他の農業クラブ役員が主体となって行っている校内の活動として、収穫感謝祭や地域奉仕活動などの行事を計画・実施しています。

収穫感謝祭は自然環境の恵みの中で育まれる農産物や加工などの過程を含めた食材に対して、農業にかかわる様々な産業や人々に対して、感謝の意や収穫の喜びを表して執り行われる行事となっています。



地域奉仕活動は、日頃から地域との交流活動を活用した教育活動のお礼として、学校周辺の主な公共施設等の清掃活動を行い、地域に貢献することを目的として行われています。毎年、約100名のクラブ員と教職員が参加し、地域からも評価の高い活動となっています。これらの行事は、計画・準備・実施を農業クラブ役員が主体となって行っており、各クラブ員が自覚を持ち、協力しあい、感謝の気持ちを育む活動となっています。

4. 交流活動の取組み状況

(1) 主基斎田お田植まつりへの参加

本校では、毎年、本校創立の起源となっている大正時代の主基斎田跡地で実施されている綾川町無形文化財「主基斎田お田植まつり」に、農業クラブ員が早乙女や踊り子、耕作者として参加しています。「主基斎田お田植まつり」は綾川町の主基斎田保存会が、主基斎田に選ばれた栄誉と当時のお田植式を後世に伝えるために昭和60年(1985年)から行っており、住民の多くが参加する、地域の一大イベントとなっています。お田植まつりはクラブ員にとっても地域農業の歴史や伝統・文化にふれるよい機会の一つとなっています。お田植まつりへの参加は農業クラブ役員を中心に、1年生の女子生徒全員と2・3年生のクラブ員の一部に参加を促し、毎年、60名以上が参加しています。お田植まつりでは、お田植まつりの花形である田植えを行う「早乙女」と田植え後の斎田おどりをを行う「踊り子」の女子生徒、斎田を耕作する「耕作者」に数名の男子生徒が参加しています。

お田植まつりに参加するには、主基斎田保存会と地元婦人会の方々から指導を受ける必要があります。何日もかけて繰り返し練習を行います。早乙女の練習内容としては、斎田への入場・退場方法を確認した後、縄定規を使用した田植え動作の練習を行い、太鼓の音に合わせて全員が揃って田植えが行えるように何度も練習を行います。踊り子の練習でも、斎田おどりの型を歌に合わせて踊る必要がある



ため、婦人会の方々の指導のもと繰り返し練習が行われます。また、斎田おどりでは婦人会の方も一緒に踊るため、50名ほどの踊り子全員が揃って踊る必要があるため反復練習が重要となります。お田植まつりでは地域の住民の方はもとより、地域の小学生も参加する

ために、全員で練習を繰り返して本番に臨みます。

「主基斎田お田植まつり」の本番では、早乙女・踊り子・耕作者は、大正時代のお田植式当時の服装を参考にした古式豊かな衣装に着替えてお田植まつりに参加します。着付けを行った後は、気も引き締まります。また、参加する生徒はお田植まつりの主役であるため、神事にも参加します。神事に参加することもよい経験になっています。お田植まつりでは、多くの見学者や報道機関が見守る中、地域の方々と協力してお田植まつりを滞りなく行うことができます。平成27年には主基斎田、農業経営高校ともに百周年を迎え、「主基斎田100周年記念お田植まつり」として秋篠宮同妃両殿下御臨席のもと例年より盛大に執り行われました。

お田植まつりに参加することにより、農業クラブ役員はもとより他の農業クラブ員にも学校に対する認識や伝統・文化に対する意識の変化が見られます。また、地域の人達と交流を持つことにより、社会性の向上が見られ、地域住民の方々や地元小学生といつの間にか打ち解けて気安く話し合える関係になっています。そして、なにより農業クラブ員一人一人が行事とおして充実感や達成感が見られます。

(2) その他の活動

その他の交流活動として、ふれあい動物園、農業体験や農場見学なども行っています。ふれあい動物園では、本校で飼育しているポニーやヤギ、ウサギ、イヌなどにふれあえる移動動物園を開催しており、地域の方々や園児、小学生にとっても人気の活動となっています。農業体験や農場見学では園児や小学生を本校に招いて、実際に農作業の体験や農場の見学を行ってもらっています。これらの活動は地域住民や校外の方々に様々なことを体験、経験してもらうために、農業クラブ役員が計画・実施し多くのクラブ員が参加して活動を行っています。

5. まとめ

農業クラブ員として自覚をもち、農業クラブ活動を活性化させるためには、学校内での様々な活動も重要ですが、それと同時に地域や外部との交流活動をクラブ員が主体的に行うことにより、意欲的な活動の拡大や活性化につながると考えます。

